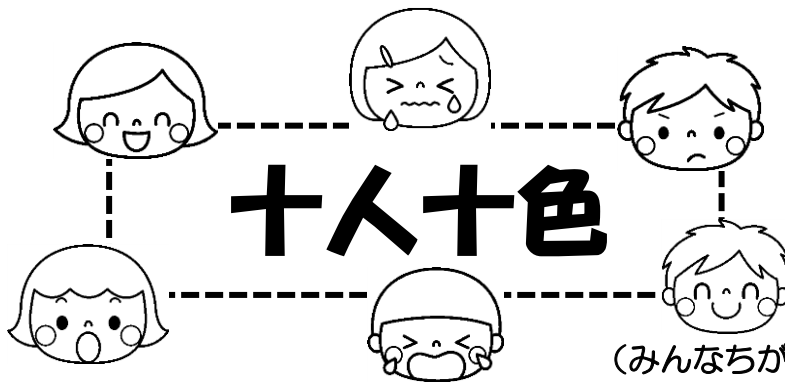


6月



令和元, 5, 31

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO2

(みんなちがってみんないい!)

*自分を見つける。

自分は何が得意で、何がしたいのか?どうなりたいのか?大人の私たちでさえ、突然こんな質問をされたら、戸惑ってしまうでしょう。以前、子ども達に「今日は何の遊びがしたい?」と聞くと「わかんない!」「なんでもいいよ!」などの返事が返ってることが多かったです。与えられた遊び(大人主導の遊び)の経験が多かった子ども達は、どんな遊びをしたいのかさえ考えなくなってしまいました。特にお利口さんタイプの子供達には顕著にみられました。大人の顔色をうかがいながら大人にこういったら喜ぶかも・・・と考えてしまうんでしょうね。

今、子ども達はやっと自分のしたい遊びを見つけられるようになってきました。ここまで来るのにすごく時間がかかりました。保育士も変な癖が抜けず「こうしたら?」「あーしたら?」とおせっかいの押し売りをしていました。友達の遊びをじーっと見ている姿は、「この遊びかな?って吟味している時だな。」と分ると口出しせず、子どもの出す答えを待てるようになってきたように思います。そして遊びの環境を整えていく。この作業をすることで子ども達の遊び方も変わってきました。

例えば、Y君は機械に関心があるようです。そこで担任は園用のドライバーをY君に渡しました。ねじのある場所を見つけては、ドライバーをさしこんで回したい様子。すかさず、次の日は壊れたCDプレーヤーを持ってきて「これのねじをはずせば!」と言ってくれました。Y君の目が輝きます。一心不乱にねじ回し……。Y君これまでなかなか同じ遊びに集中でない姿が気になっていました。でも、2時間ほど同じ場所に立ち、ねじ回し。「(保育士)さん!外れたよ!」と何回も呼びに来ていました。次の日担任は、ドライバーセットと工具箱を買ってきました。更に、嬉しいY君。今度は壊れたカセットデッキを分解しています。Y君の作業に関心を持った子ども達が集まってきます。「Y君、すごーい!」「かっこいい!」「へえ中身はこうなっているのか!」Y君も嬉しそうに説明をしてくれます。この経験をしてから、Y君、見違えるほど何事にも積極的に動くようになりました。自己肯定感が育ったんだと思います。この出来事は職員みんなで共有して、喜び合いました。

一人ひとりの良いところを探そう!という意識が職員の中に浸透してきました。料理作りに関心を持っている子、ピアノ(ピアノ)が大好きな子(今はちゃんむしのうたやももたろう、きんたろうの歌を弾いています。)ピタゴラにはまっている子とそれぞれですが、その遊びが十分に経験できるように環境を整えているところです。昨日はデジカメを持った5歳児がやってきました。「私の撮った写真を見て!」そこには、お友達が嬉しそうに遊んでる姿がたくさんありました。これもいいね!でした。Hちゃんの撮った写真を印刷してあげて、額に入れて部屋に飾ってあげようと思います。

子ども達の「やってみたい!」をこれからも応援していきたいです。1日の子ども達の様子は、担任が毎日ドキュメンテーションで張り出してありますので、ぜひご覧ください。面白いですよ!

